

『平成26年度豊かな体験活動推進事業』活動報告書

【豊かな体験活動推進事業 推進校】

キャリア教育の視点を生かした民泊・集団宿泊体験活動 山口県下松市立東陽くだまつ小学校

学 校 の 概 要

- ① 学校規模
 - 学級数：12学級
(内特別支援学級2学級)
 - 児童数：235人
 - 教職員数：19人
 - 活動の対象学年：5年生・48人
- ② 体験活動の観点などからみた学校環境
 - 下松市の東部、久保地区の一角に新しく造成された久保団地の中央に位置する。
 - 校区は古くからの田園地帯で長い歴史と文化をもつ切山地区と、新興住宅地である東陽地区からなる。
 - このような新しさと古い伝統をあわせもつ校区であり、地域の人々は協調的で勤勉真摯な気風がある。
- ③ 連絡先
 - 〒733-0043
山口県下松市東陽4丁目17番地1号
 - 電 話：0833-46-3110
 - F A X：0833-46-3907
 - ホームページ
<http://www17.ocn.ne.jp/~toyosho/>
 - 電子メール kcity11t@cronos.ocn.ne.jp

体 験 活 動 の 概 要

- ① 活動のねらい
 - 宿泊体験活動を通して、豊かな人間性や社会性、チャレンジ精神を育む。
 - 漁村の人々と交流する中で、漁村の暮らしについての理解を深めるとともに、人々の生き方にふれる。
 - 共同での生活や作業を通して、仲間と協力することや自己の役割を果たすことの大切さを体得させる。
- ② 活動内容と教育課程上の位置付け
(単位時間数・日数)
 - 事前の学習活動：10単位時間
(総合的な学習の時間 4単位時間、
社会科 6単位時間)
 - 社会見学：3単位時間
(総合的な学習の時間 3単位時間)
 - 民泊体験活動：6単位時間
(遠足・集団宿泊的行事 6単位時間)
周防大島町体験交流型観光推進協議会
選定の民家14家庭で1泊(山口県周防大島町)
 - 集団宿泊体験活動：12単位時間
(遠足・集団宿泊的行事 12単位時間)
国立山口徳地青少年自然の家で2泊(山口県山口市)
 - 事後の学習活動：10単位時間
(総合的な学習の時間 10単位時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ① 宿泊体験活動を通して、豊かな人間性や社会性、チャレンジ精神を育む。
- ② 漁村の人々と交流する中で、漁村の暮らしについての理解を深めるとともに、人々の生き方にふれる。
- ③ 共同での生活や作業を通して、仲間と協力することや自己の役割を果たすことの大切さを体得させる。

(2) 全体の指導計画

- ① キャリア教育の視点を生かした民泊・集団宿泊体験活動学習
- ② 活動内容及び期間・教育課程上の位置付け

【活動名称】 ○内容	期間	教育課程上の位置付け
【事前の学習活動】 ○ 体験学習の活動のねらい、活動内容等 ○ 班編成 ○ 自己紹介シートの作成	6月下旬	総合的な学習の時間 4単位時間
○ 「さまざまな土地の暮らし」(農業・水産業の学習) ○ 周防大島町の特徴について	6～7月	社会科 4単位時間 社会科 2単位時間
【社会見学・魚に触れる体験活動】 ○ 陸奥記念館及びなぎさ水族館の見学	9月9日	総合的な学習の時間 3単位時間
【民泊体験活動】 ○ 漁村での生活体験・職業体験 ○ 周防大島町での自然体験	9月9日～ 10日	遠足・集団宿泊的行事 6単位時間
【集団宿泊活動】 ○ ナイトウォーク、キャンドルサービス ○ 野外炊飯 ○ 徳地アドベンチャー教育プログラム	9月10日～ 12日	遠足・集団宿泊活動 12単位時間
【事後の学習活動】 ○ 体験の振り返りとまとめ ○ 礼状及び民泊体験記の作成	9月中旬	総合的な学習の時間 6単位時間
○ 東陽小フェスティバルでの展示・発表	11月15日	総合的な学習の時間 4単位時間

2 活動の実際

(1) 事前指導

① めあてと一日の振り返り項目の設定

宿泊体験活動の学年としてのめあてを確認し、それに照らし合わせ、班ごと及び一人ひとりにめあてを設定させた。また、児童がその日の活動を振り返りやすいように、「一日の振り返り項目」を具体的に示した。

② 班編成

民泊での班は受入家庭の状況及び児童の人間関係を配慮して教師の方で決定した。徳地青少年自然の家での班は、班長を選出し、班長会議で班編成を行った。

③ 民泊体験活動の自己目標の設定と自己紹介シートの作成

ワークシートを用いて、民泊体験活動における自己目標を設定させるとともに、自己紹介文を書かせたシートを作成し、事前に受入家庭に届けた。

(2) 活動の展開

1日目 9月9日(火) 8:05 登校 8:30 出発式 8:50 学校出発 10:30 陸奥記念館着 陸奥記念館、なぎさ水族館 11:30 昼食(弁当持参) 12:20 陸奥記念館発 12:40 東和総合センター着 13:00 入村式(東和総合センター) 13:30 民泊での活動Ⅰ	3日目 9月11日(木) 6:30 起床・整理・洗面 7:15 朝のつどい 7:30 掃除 8:00 朝食 9:00 奉仕活動 10:00 野外炊飯(カレー) 17:00 タベのつどい 18:00 入浴・夕食 19:30 キャンドルサービス 21:30 就寝準備 22:00 就寝
2日目 9月10日(水) 7:00 民泊での活動Ⅱ 13:00 離村式(東和総合センター) 13:40 総合センター発 16:00 徳地青少年自然の家着 16:30 入所式・オリエンテーション 17:00 タベのつどい 18:00 夕食・入浴 19:30 ナイトウォーク 21:30 就寝準備 22:00 就寝	4日目 9月12日(金) 6:30 起床 7:15 朝のつどい 7:30 朝食 8:00 掃除・退所準備 9:30 TAP(徳地アドベンチャー教育プログラム) 12:30 昼食 14:00 退所式 14:30 徳地青少年自然の家出発 15:50 学校到着・解団式





(3) 事後指導

① 礼状の作成

民泊受入家庭にお礼の手紙を書かせることで、お世話になった方々への感謝の気持ちや自分が体験して学んだこと、成長したことなど伝えさせた。

② 民泊体験記（宿泊学習のまとめ）の作成

民泊体験や集団宿泊体験で学んだことを振り返り、自分なりにまとめることで、自分自身の成長につなげるようにさせた。

③ 全校児童及び保護者・地域の方々への発表

11月の東陽小フェスティバルにおいて、全校児童及び保護者・地域の方々はこの宿泊学習で学んだことを掲示したり、発表させたりした。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校や受入地域の支援体制

① 学校の体制・・・校長、教頭、教諭3名（5年担任2名、特別支援学級担任1名）計6名

② 受け入れ地域における体制

- 民泊体験活動・・・周防大島町商工観光課
- 集団宿泊体験活動・・・国立山口徳地青少年自然の家

(2) 配慮事項等

① 保護者への事前説明

昨年度（4年時）、2月の参観日の際に、校長自ら豊かな体験活動推進事業における民泊体験活動についての趣旨説明を行い、宿泊学習を3泊4日で実施することについての理解を求めた。新年度になって、4月の学級懇談会で、担任から活動の概略について説明を行った。

② 児童の健康管理

担任と養護教諭及び栄養教諭とで健康調査票を作成した。アレルギーや保護者が事前に民泊受入家庭に伝えておきたい内容についてまとめ、周防大島町商工観光課を通して受入家庭に事前連絡を行った。エピペンを所持している児童については、特に入念に情報交換をして、以前そのような児童を受け入れたことのある家庭にお願いすることにした。

③ 障害のある児童への対応

特別支援学級児童（1人）については、周防大島町商工観光課を通して受入家庭に事前連絡を行い、十分理解したうえで、受け入れてもらえるよう配慮した。

④ 安全管理体制

けがや病気等への対応を速やかに行うために、事前に周防大島町商工観光課との間で「事故発生時等の緊急対応マニュアル」を作成した。体験活動時には引率教員と商工観光課職員とで巡回し、活動の様子と児童の健康状態を把握した。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

(1) 体験活動の評価

- ① 児童の変容が数値的に把握できるように、事前及び事後にアンケート調査を実施した。
- ② 児童の変容を数値的に把握するだけでなく、担任等が児童一人ひとりの言動や友達との関係等をしっかりと観察するよう努めた。また、短期的な変容だけでなく、長期的な視点から変容を捉えようとした。
- ③ 保護者が児童の変容及び体験活動をどのように捉えたか把握するために、体験活動実施後にアンケート調査を実施した。

(2) 指導の改善

- ① 周防大島町での生活体験・漁業体験、山口徳地青少年自然の家での野外炊飯や徳地アドベンチャー教育プログラム（TAP）など、それぞれ体験活動をキャリア教育の視点、とりわけ人間関係形成・社会形成能力の育成を意識して指導するようにした。
- ② 様々な課題に対して、児童が自分たちで考えて行動できるようにしたり、相互の人間関係をより深めたりできるように、余裕のあるプログラムを組んだ。
- ③ 教師は児童の言動をきめ細かく観察し、児童の声に十分耳を傾けるが、すぐに口を挟んだり、解決策を示したりするのではなく、自分たちで気付かせ、考えさせ、問題を解決させるよう支援した。
- ④ 話し合いに際しては、自分が発言する以上に他者の発言をしっかりと聴くことの大切さを継続的に指導した。

5 活動の成果と課題

(1) 成果

- ① 児童への事前と事後のアンケート調査の結果を比較してみると、顕著な違いが現れたのは、「初めて会った大人の人と話ができる」であった。6段階の回答で、とてもよく当てはまると回答した児童の割合が19%（9人）から44%（21人）と大幅に増えた。
また、民泊体験については、4段階の回答で、「とてもよかった」が96%（46人）、「よかった」が4%（2人）で全員が肯定的評価をしている。

児童の声

- ・全く知らない人の家に泊まって、知らない人でも少ししゃべることができるようになったと思う。もっといろんなことに挑戦してみたい。
- ・船に初めて乗って、釣った魚をいけすに入れるところを間近で見て、すごくリアルだった。東陽は山に囲まれているけれども、大島はちょっと車で出れば海だから、いつもとは違う生活ができた。
- ・自分ができないことは人にきいて自分の力でやらなくてはいけないこと、やったことの

ない体験をする前はできるか心配だったけれども、してみるとできることを学んだ。

② 保護者へのアンケート調査の結果（回答者40人、回収率83%）によると、「民泊体験について貴重な体験になったと思う」という問いに、4段階の回答で、「とてもそう思う」が95%（38人）、「そう思う」が5%（2人）で全員が肯定的評価をしている。

保護者の声

- ・このあたりでは経験できない自然にふれ、自分たちでやってみるという貴重な体験をさせてもらい、顔がとても生き生きしていた。
- ・家に戻り、今まで全く自分から進んですることがなかった子が、自分から「やろうか？」って言ってくれるようになった。
- ・自分で魚をさばいたことが大きな自信になったようだ。我が家とは違う観点で接してもらえることの大切さを親も学んだ。

③ 釣りの体験のない児童や港や川での釣りぐらいしか体験をしたことがない児童がほとんどであったが、漁船での釣りや自分で釣った魚を自分でさばくという貴重な体験をすることができた。また、漁村でのくらしぶりを実際に体験することで、自分のたちとは異なった生活をしていることに気付かせることができた。

④ いつも給食を食べるのが極端に遅い児童がいた。その児童が民泊家庭で食事のとき、「そんなことでは、〇〇（児童が就きたいと思っている職業）の仕事は務まらないぞ」と言われた。その言葉に発奮した児童は、それ以後給食を早く食べるようになった。

⑤ 新しいクラスになって、なかなかクラスに溶け込めなかった女子児童が、宿泊体験活動を通して級友との絆を築くことができ、明るい表情を見せることが多くなった。



【民泊受け入れ家庭へのイラスト付きお礼の手紙】

(2) 課題

継続して取り組みたい体験活動ではあるが、今までの宿泊学習よりも保護者負担額が大きくなり、プログラムを検討するなど負担額を削減する工夫を行うことが必要である。